

公益財団法人千里リサイクルプラザ平成26年第2回理事会議事録

1. 開催日時 平成26年5月9日(金)午後2時から3時00分
2. 開催場所 吹田市資源リサイクルセンターA棟5階 講義室1
3. 理事現在数 11名
4. 理事定足数 6名
5. 出席理事数 8名
(出席理事) 岡本 昌則 羽間 紀雄 岸 勝司 小南 康隆 土屋 正春
寺西 重博 湯川 求 吉川 英次
(欠席理事) 梶谷 尚義 安田 博明 山中直義
(出席監事) 竹原 道幸

6. 会議の目的事項

- 決議事項 第5号議案 平成25年度(2013年度)事業報告及び決算の件
第6号議案 平成26年(2014年)定時評議員会招集の件

7. 会議の概要

(1) 議長の確認

冒頭で坪田一美次長が司会となり、本日の議長は定款第37条の定めにより理事長が務める旨を報告した。

(2) 定足数の確認

議長は、本日の出席理事数が8名であることを確認し、その結果定款第38条第1項に定める定足数を満たしており、本日の理事会が有効に成立していること宣し、議案の審議に移った。

(3) 議案の審議状況及び議決結果

① 第5号議案 平成25年度(2013年度)事業報告及び決算の件

議長が、第5号議案を議題とし、事務局に説明を求めたところ、坪田一美次長が、この議案については定款第8条第1項に定める監事の監査を受けたので理事会の議決を求める旨を説明し、事業報告については近藤均参事及び尾崎昇一主査が、計算書類について天野美晴主査がそれぞれ議案書を基に順次説明した。

議長が質問及び意見を求めたところ、質問・意見ともになかったので採決を諮ったところ、満場一致をもって第5号議案は承認可決された。

② 第6号議案 平成26年(2014年)定時評議員会招集の件

議長が、第6号議案を議題とし事務局に説明を求めたところ、坪田一美次長が定時評議員会を下記要領にて招集するため、定款第18条第1項の規定により理事会の議決を求める旨を説明した。

開催日時 平成26年5月28日(水) 午後2時

開催場所 吹田商工会議所会館2階 第1会議室

目的である事項

- ・役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規則の一部改正の件
- ・平成25年度(2013年度)事業報告及び決算の件

- ・理事2名の選任の件
- ・監事1名の選任の件
- ・報告事項

議長が質問及び意見を求めたところ、次のような質疑応答があった。

(土屋理事)現在の評議員数は何人ですか？

(坪田次長)11人です。理事と同数です。

(土屋理事)評議員の出席率はどうですか？

(坪田次長)事前に日程をお伺いして出席率の多い日程を設定していますが80%ぐらいの出席で留まっています。

他に質問・意見ともになかったので採決を諮ったところ、満場一致をもって第6号議案は承認可決された。

案件の審議は終わったので、議長が他の発言を求めたところ、次のような質疑応答があった。

(小南理事)事業報告の環境学習支援クラブ活動の支援ですが、事業報告を見ていると高野台小学校だけでニュータウンの小学校の参加がほとんど無いようですが、学校に認識がないのですか。なにか理由はありますか。

(尾崎主査)本年度では津雲台小学校からの申し出も来ています。一昨年度には青山台・藤白台小学校などの申し出もありました。その年によって担任の先生も変わりどういうニーズがあるか始ってみないとわからない状態で決してニュータウンの小学校が関心が無いというわけではありません。市内全体に均等には広がっていると思いますが一度も申し込みが無い学校もある状態ではあります。

(岸局長)年度初めの校長会では担当の方から学習支援の説明をさせてはもらっています。

(小南理事)小学校も授業以外の活動もたくさん行われていますが、環境学習についてももう少し積極的に取り組もうという意識がほしいですね。

(羽間副理事長)実は各学校によっては利用している環境団体が異なっています。このプラザ以外でも環境学習支援を行っているセルフのような団体もありますので、一概にこの事業報告だけで吹田全域の環境学習を把握するのは無理があると思います。

(小南理事)わかりました。

(岡本理事長)他にご意見はございませんか。

(土屋理事)土屋です。研究所長という職を受けましたので意見しにくいのですが、この事業報告を見ていただいてもわかりますように活動が学校に特化しています。これがここの特徴といえそうですが、事業者に対してどうするかというのがこれからの問題だと思っています。これは設立当初からの課題になっています。環境問題に意識して年間2万人近い人が集まってくるところはそうざらにないと思います。ここに事業者にもむけての努力を示す、事業者のブースを設けるなど、それぐらいのことをすべきだと思いませんか。同時に事業者の方とタイアップして次の時代に向けた協同研究を考えたらいいのではないのでしょうか。滋賀県では実に盛んであります。E・S・G(Environmental(環境)、Social(社会)、Governance(企業統治:ガバナンス))に沿っていく行動転換を早くしたところが生き残っていく地域であり企業であります。このリサイクルプラザでも知恵を集めればできることだと思っています。手がかりがほしい企業が実に多い。どのようにしたらいいかと。ヒントをほしがって

ます。吹田市としては早くニーズを掘り起こして対応する道を提供してあげるのが使命であると思います。経済界・事業者との連携をどう組み立てるかという作業に着手することが大事ではないでしょうか。以上です。

(岸局長) 私共としても今後低炭素時代あるいは企業のエコに対する活動をどう表に出していくのかと言うことが必要になってくると思われま。たとえばプラザのフリーマーケットで空きスペースに市内のエコに関する事業所などに場所を提供して活用していただいてもよいかと考えます。プラザとしても27年度に低炭素時代に向けてのプロジェクトを立ち上げるについても今年度エコ活動されている企業に講演などを依頼し巻き込んでいけたらと考えています。ただ、土屋理事がおっしゃったような幅広い企業を巻き込むとなるとプラザ独自の働きかけよりも行政が音頭をとっていただいた方がよいのではないかと思います。環境部としても26年度は次の時代に向けての検討期間だと位置付けていると思いますので最大限プラザも参加していきたいと考えています。

(寺西理事) こちらの焼却場の建替の時期に、商工会議所でも市の方からごみの分別についての調査のご協力をとの依頼があったことを思い出しました。プロジェクトチームをつくって資源ごみを溶解処理する工場を視察に行ったことによって関心が深まったことがあり、効果があったと思います。土屋理事がおっしゃったようにプラザも会議所も提案があればそれなりの動かし方ができると思います。ただ何がテーマかということです。どの企業も環境には関心を持っているのですが結構コストがかかるというのが実情です。零細企業には難しいところですが、やはり絶えず啓蒙していくことが大事かなと感じています。プラザとしても毎年新しい事業の取り組みをその視点で取り入れていくというのが望ましいのではないかと思います。

(岡本理事長) プラザとしても商工会議所とタイアップして協同行いたいという気持ちはありますのでまた一緒にできる事業があれば考えていきたいと思っています。

(寺西理事) 産業フェアには出ていただいているんですね。

(坪田次長) はい。そうなんです。明日・明後日と。他にも一昨年だったかエコアクションの発表に商工会議所を通じて企業の方に来ていただいたという事例もございます。また企業向けの事業も商工会議所にお知恵をいただいて進めてまいりたいと考えています。

(岡本理事長) 何か一つでも新しい事業が展開できればと考えます。

(寺西理事) 他にもトラックに機械を積んで来て会社の目の前でシュレッダーをかけるというシステムを事業化しているところもあるみたいでした。分別することによって焼却場への負担を減らすという目的もあったようですね。

(岡本理事長) そうですね。当時はごみがどんどん増えていっていたのでごみを減らす取り組みが行われていました。右肩上がりでごみが増えるとして考えて計画してきた焼却場の建設費も777億だったのがごみ減量努力で250億ほどで済んだようです。分別など企業や個人の努力があって今では右肩下がりでごみは減ってきています。

(羽間副理事長) 現在我々が考えているのは集団回収を広めるとか搬入を減らすということを考えています。中小の企業への事業指導を強化することで一定紙ごみについては減ってきています。生活ごみも一定レベルまで減ってきたのですが、ここ数年減少が止まってきているのでこれからはごみを発生させないという方向に考え方が切り替わってきています。

(寺西理事) 大型ごみなんかはどうしていますか？

(坪田次長)はい。こちらの破碎選別工場へ搬入され選別処理をしています。今日は理事会が終わりましたら理事の方々にご案内する予定にしております。こちらは手選別で細かく分別処理をしています。

(羽間副理事長)こちらの選別能力は全国でもトップレベルだと思います。

(寺西理事)なにしろ環境についてはもっと考えていかないといいけませんね。ドイツのフライブルクはかなり進んでいて取り組んでいることが素晴らしいです。

(羽間副理事長)いろいろな事を吹田でも行ってきていますが、やはり環境団体の総元締めという形でプラザがなっていければと望んでいます。

(土屋理事)この施設を造った当時のプラザの勢いはすごかったですよ。では今ここが進んでいるのかという決してそうではないと思います。21年目となりますが。

(岡本理事長)当初の目的はある程度達成できたかなという部分はあるんですが、そこからもう一歩が脱皮できていないところです。

(寺西理事)イノベーションですな。革新です。会議所も協力していきます。

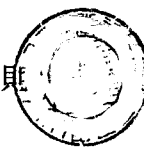
(岡本理事長)ぜひとも、よろしくお願いいたします。それでは他にご意見ございませんか。無いようですので、これもちまして本日の理事会は終了させていただきます。

以上をもって議案の審議等を終了したので、午後3時00分、議長は閉会を宣し、解散した。

この議事録が正確であることを証するため、定款第39条2項の定めにより、出席した理事長及び監事は記名押印する。

平成26年5月9日

理事長 岡本 昌典



監事 竹原 道幸

